



ご近所とのおすそ分けやラジオ体操、グランドゴルフなどの仲間は、地域の皆さんにとって当たり前のお楽しみです。こうしたつながりは、お互いを気遣い、介護サービスに頼らず自宅で暮らし続けるための重要な鍵となります。「つながる通信」ではそういったささえ合いを「お宝」として、発信していきます。

取材先

◇ 休泊地区 沖之郷町「実相寺」で写経



実相寺の歴史も古く、天正2年（1574年）から始まり現在の住職である中村元信さんで17代目。写経を始めたきっかけは、お寺を身近に感じてもらい、地域の人がつながる集いの場になればと平成18年から始めました。

土曜の午後1時過ぎから本堂でお経を読み、南こうせつさんの「まごころに生きる」を歌い、お寺からの話を聞いて最後にお線香をあげてから写経は始まります。

コロナ禍なので、マスク・消毒はもちろんお互い間隔を取って対面しないように席に座り、筆をとって半紙に向き合い、優に一時間以上は集中して皆さん写経を楽しんでいました。



地域のお宝発見～日頃の交流が支え合い活動～ 太田市生活支援体制整備事業

～写経が終り、皆さんでお茶の様子～



<皆さんからのお話>

実相寺が本堂で写経を教えてくれているおかげで、地域の人と交流ができるとともに、作法を学び、沖之郷の伝統文化に触れることができるととても感謝しています。

<実相寺からのお話>

通っている人たちが、とても良いつながりを持っていて、お寺の行事や地域活動にも参加してくれていることに感謝をしています。

と、お互いに感謝の気持ちをお話してくれました。

右の写真は大正7年（1918年）の様子で、毎年7月に行われていますが、今年はコロナの影響で残念ながら中止になりました。

祇園祭の1週間後には地域のお年寄りが集まって大きな数珠を手繰りながら「百万遍念仏」を唱えます。写経の参加者の中にもそれを楽しみにしている人もいました。

～沖之郷町の祇園祭～



伝統文化

現在、コロナ禍の中で地域の活動はまだまだ自粛ムードではありますが、しっかりと感染症予防対策を取りながら活動を継続していく事で、人と人とのつながりを切らせない、少しでも顔を見合せて会話ができることを皆さん楽しんでいました。

また、沖之郷町にある伝統文化を地域の皆さんが大切にされていて、それを継承していくだけの「人と地域」のつながりがあることも感じました。

チェックポイント

- ・ コロナ禍でも対策をとって趣味を楽しむ
- ・ 伝統文化を継承していくための「人と地域」のつながり

◇『つながる通信』は太田市社会福祉協議会のホームページ<https://otashakyo.jp/>に掲載しております

お問合せ

太田市社会福祉協議会 地域福祉係
〒373-0817 群馬県太田市飯塚町1549
電話 0276-30-0033 FAX 0276-30-0032